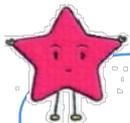


クロスワードパズルこたえと解説



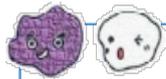
インセキ

隕石は、天体の一部が地球に落ちてきたもので、その多くは火星と木星の間にある小惑星帯から来たものです。隕石には岩石でできたもの、鉄などの金属でできたもの、岩石と鉄などが混じったものがあります。カンポ デル シエロ隕石には鉄が多く含まれているので、さわると鉄さびのにおいがしたり、磁石を付けることができるのです。



カイリョウマブシ

蚕は成長すると糸を吐き出して繭をつくります。そのとき糸をからめやすいようにした仕掛けが「簇」と呼ばれる道具です。「折り簇」はわらを折り曲げて作った簡単なもので、1回限りしか使えません。「改良簇」はわらの組み方などが工夫されて、折りたんでしまっておくことができ何度も使えます。「回転簇」は大きさのそろった繭を、蚕の習性を利用して、効率よく作ることができるよう工夫されたものです。



ヒョウガ

相模原台地が誕生したのは、約10万年前から1万年前までの間です。その頃の気候は寒冷で、氷河の広がる時代でした。その時代を象徴する生き物として、マンモスの頭骨化石を展示しているので見てみましょう。



カワラノギク

カワラノギクは河原の厳しい環境に適応して生育しています。かつては関東地方の河原に広く分布していましたが、環境の変化によって、今では相模川などの限られた河原にわずかしが残っていない貴重な植物になりました。



カイクノウカ

かつて「相模野」と呼ばれた広大な原野で暮らした農民たちは、少しでも生活を向上させようと、苦勞して荒地を畑地に開拓しました。「清兵衛新田」は江戸時代末期の1840~50年代に、原清兵衛が計画した規模の大きな新田開発です。けれども台地であるため井戸を深く掘らなければ水が得られず、畑作などによる農作物の収穫も少なかったため、人々の生活は苦しいものでした。この建物から当時の開拓農家の暮らしがわかります。

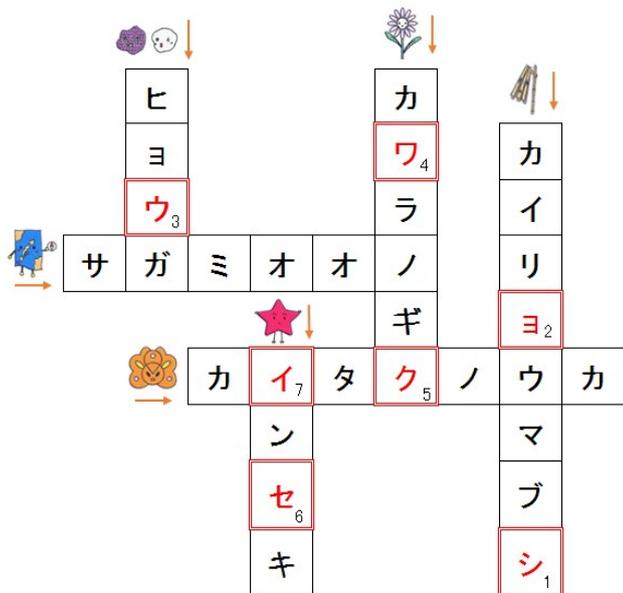


サガミオオノ

相模原市は高度経済成長期以降、工業都市、住宅都市として急速に都市化が進みました。特に相模大野駅周辺では、1972年以降に進められた区画整理に合わせて、デパートや商業ビルが次々と建てられ、市の中心商業地へと大きく姿を変えました。

こたえ

シ₁ ヨ₂ ウ₃ ワ₄ ク₅ セ₆ イ₇



小惑星とは、主に火星と木星の間にたくさんある小さな天体のことです。地球と同じように太陽の周りを回っており、主に岩石でできています。小惑星探査機「はやぶさ」が着陸したイトカワの大きさは約500m、現在「はやぶさ2」が調査中のリュウグウの大きさは約900mです。どちらも砂や岩のかたまりに覆われた天体ですが、二つは別タイプの小惑星で、「はやぶさ2」は2020年頃に地球へ小惑星のかけらを持ち帰ろうとしています。小惑星は太陽系の歴史を知る手がかりとなる天体のため、色々なタイプの小惑星を調べることが、私たちの住む地球が誕生した頃の出来事についてわかることが期待されています。

